

女子青年界

第十五巻

六月號



前附一

女子青年界目次

第十五卷 第六號　大正七年六月號

▼會　說▲

□看病と贅澤……河井道子……(一)
□會告……(四)

▼講　演▲

□神の國の面影……多田素……(五)
□基礎的の學問……新渡戸稲造……(九)
□米國民の共勞的精神……松澤光茂……(一二)
□繪葉書を賣りて……河井道子……(一三)
□慰問デー概況……(一六)
□東京女子大學……(一七)
□弘濟會……松藤つる子……(一八)
□淪落婦人の爲祈禱會……(一九)

□總會の記……青山ゆき子……(二〇)
□送別會の夜……大橋房子……(二二)
□王川遠足……平岩末子……(二五)
□粉屋と花作り……文子……(二九)

▼少女欄▲

□もだえ……野邊地天馬……(三四)
□勇敢なる少年……外山信子……(三八)
■彙報……(三九)
本部報告……梅花女學校青年會……同誌社女子青年會……梅花女學校青年會……廣島女學校青年會
友垣……(四三)
消息……(四五)
會計報告……(四六)
英文……(四七)

御用の節は『女子青年界』の廣告で見たと御申添下さい

日本基督教女子青年會
本部委員及幹事

委員長 井深花子　書記 三谷民子
副委員長 岡見恵子　會計 井上友子
委員
辻松子　ミセスフェールプス
長谷川喜多子　上代淑子
鈴木歌子　ミス・トリストラム
山田千代子　長尾ナミ子
ミセス・クック　ミス・ウエスト
松田道子　星野愛子
廣岡淺子　城戸順子
ミス・ゲーンス　志立タキ子
津田梅子　ミス・デントン
ミセス・クレメント　松岡鎮江
ミセス・フィッシャー　野村美智子
藤田貞子　井上レツ子
佐伯小糸子　ミス・ソール
總幹事 河井道子　幹事兼書記 ミス・ガンター
同 ミス・マシウ

W. M. Vories and Company, Architects

Hachiman, Omi
and
National Y. M. C. A. Building,
Omote Sarugakucho, Kanda, Tokyo.

建築 設計監督 ヴォーリズ合名會社

近江八幡町

東京出張所　基督教青年會同盟本部内

東京市神田區表猿樂町

電話本局六二四番

人參を服用する人はホシ人參丸を選べ

ホシ人參丸は人參の研究を以て名ある三宅博士が朝鮮人參の本場なる開城産中の最良品を選擇し是を科學的に精製したるものなり

帝國大學、農科大學、理學博士　三宅驥一先生勸奬

ホシ人參丸

体力精力增進

主効　神經衰弱、ヒステリー、貧血、肺病、老衰、リウマチス、子宮血の道、腦病、神經病、陰萎、營養不良、腎臟、

定價　廿錢　五十錢　一圓　二圓

東京京橋南傳馬町三丁目
星製藥株式會社
電京一七八五、振東二〇五二三

◀各地藥店及特約店にあり▶

前付五

和本

▷舊新約全書の研究
ハールバット博士著 1.30–.08

▷マルチン、ルーテル
武藤　健著 .45–.04

▷緋文字　佐藤　清譯 1.30–.08

▷通俗耶蘇一代記
櫻井成明譯 .60–.06

▷風雲（兒童問題の將來）
平瀬龍吉著 1.30–.08

▷救の話　コルテス著 .30–.04

▷歴史的耶蘇　宮崎小八郎譯 30–.04

▷基督教と近世思潮
萩原清次郎著 .65–.06

▷スポルジョンの生涯
平瀬龍吉著 .35–.04

▷基督教の耐實行性
柏井　園譯 .80–.06

▷パレアナ　廣中つち子譯 .35–.04

▷日曜學校教授法
賀川豊彦譯 .75–.06

▷單級制日曜學校の發達
コールトン著 .05–.02

■聖書及讃美歌
■日曜學校教材一式

文具

新着舶來 萬年筆
"Waterman" "Remex" ¥4.00 to 10.00

和洋書翰紙及封筒
同手帳及封筒
同鉛筆及インク
紙綴器及文字浮出器
タイプライター及附屬品種々

洋書

Bible History of the Old & New Testaments…B. J. Spalding. 1916……..40–.02
Birds Shown to the Children…M. K. C. Scott…………………… 1.40–.08
Christ, A Life of Jesus in Modern English…James Smith…… …….45–.02
Christ and the Young People…Francis E. Clark 1916…………………1.10–.08
Christian's Secret of a Happy Life… Hannah Whitall Smith…………1.10–.08
Correct English Daily Drill Book… Josephine Turck Baker…………2.75–.08
Correct English How to Use It: A Complete Grammar…………2.75–.08
Faith, Fellowship and Fealty…Cleland B. McAfee…………………….25–.02
How to Live on 24 Hours A Day… Arnold Bennett 1916…………….75–.04
How to Tell A Story and Other Essays…Mark Twain…… ……3.85–.12
Jesus-Teacher: Principles of Education for Both Public and Bible School Teachers…Frank Webster Smith 1916…… ………… ……1.10–.08
Knowledge of General Science…1916 ………… ………… …………2.75–.08
Life of Christ for the Young. … George Ludington Weed………1.65–.08
Literary Taste…Arnold Bennett 1916 ……………………… ………….75–.06
Love Made Perfect…Andrew Murray ………………………… ………….55–.04
Master's Indwelling…Andrew Murray ………… ………… …….80–.06
Mind of God…Elwin L. House 1917 ………… …………2.20–.08
Modern Business English…Carrie J. Smith & D. D. Mayne…………1.75–.08
Seven Secrets of Success and Other Talks on Making Good…Madison C. Peters 1916………………… ……1.65–.08
Shepherd Psalm. The…F. B. Meyer ………… ………… ……….65–.04
Spirit-Filled Life. The…Rev. John Mac Neil…… ………… ……….35–.02
Statement of the Christian Faith, A… Herbert H. Kelly 1916………….45–.04
Temptation What It is, and How to Meet It…Philip E. Howard……1.10–.08

東京京橋區銀座四ノ一　教文館 (KYO-BUN-KWAN)　振替一一三五七　電話京橋二五二

女子青年界 第十五巻 六月號
大正七年六月一日發行

會説

看病と贅澤

河井道子

或る家庭に一人の病兒が預けられ、家族一同心を合せて彼を愛護致しました。一番末の六つになる子が、洗ひたての着物を著て、庭に出て水遊びをして樂しまうとしました處へ、十才になる姉が出て來て、之をさし止めて云ふには、「今日はそれをお止め。折角お母あさんが洗濯したばかりの着物を直ぐよごしてしまふと、お母さんが又洗濯しなけりやならないでしよ、けれど私共がお母さんに餘り世話をかけないでおくと、昨日來た病氣の孃ちやんが、早くよくなるから」と云はれた弟は何故と問ひ返しましたら「お母さんが洗濯するだけの時間を、可憐相な孃ちやんにあげると、それだけ孃ちやんの世話が餘計出來るから、早く病氣が直るつて」と姉は敎へて、水なぶりを止めさせ、兩人で手に手を取つて、鳥小屋の方に鳥の世話に行きました。之は一寸した話ですが、非常な敎訓を私共に與へて居ります。自分ではしたい事でも、其れをしないで置く事になり、他の人が非常な恩惠を受けると云ふ樣な事が隨分あるのであります。其反對に自分の慾にまかせ假令ひ惡事でなくとも思ひの儘をするが爲、思はぬ人が不幸

に陥る場合も又あります。
先日一人の婦人が西洋の實業家によきことの爲めに献金を願ひに參りました。處ろが其の西洋人が云ひますには、それは結構な仕事であり、是非とも盛んにおよせなさい。而し何にも私しに寄附をたのむ必要がありません、日本人はいま金があり過ぎて困つて居るらしく見えます。昨日の新聞に何某氏が二十五才の誕生を祝ふとて、千人以上の賓客を招待し、非常な饗應で其上に紀念品として、一人に何十圓とかの金のボタンとかを贈つたと、掲載してありました、歐米諸國今火の雨、血の海に苦しむ今日、日本ではこんな結構な遊びが出來るのでありますから、其等の方々より幾らでも金を出してお貰ひなさい、私はこの様な贅澤を見ると、私の様な者が何もお助けする資格も、又責任もないと思ひます」と云ふて辭退されました。かくしてある善き働の道が杜絶して仕舞ました。是等は小さき例に過ぎませんが神の目から御覽になつたらば、どれ程多くの善事を一人の善き行に依つてせらるゝと同時に、一人の惡しき行がよき働きを止める事になつて居るでせう。聖書の中に、ヨセフ一人の爲、彼は行く所に祝福を持つて行きました、即ち牢にあつては其牢中の總ての人に祝福を來たし、パロ王の家にあつては、其全家を祝し、エヂプトにあつては、エヂプト全國と其隣國とに祝福を持ち來たした記事が御座います。又一人が悔改める時には、この上皆が救はるゝとポーロの申した事もあります。ザーカイの悔改めは彼の家族と其友人との救になりました。是等を以ても基督に依つて世界に祝福の來る意味が覗はれます。
然しながら私共の不注意、不深切、冷淡がどれ程思はざる所に恐ろしき結果を來すものであるかを、忘れてはなりません、舊約聖書の歴史は皆それを語つて居ります。私共が平素他と善にもあれ、惡にもあれ、關係をもつものである事は記憶せねばなりません。一軒の家にしても其主人が餘り金儲けに熱中して、妻女を顧みない様な事、又は主婦が家族以外

に少しも同情を持たぬ樣な事は、彼等自身にとつて何の損害がなくとも、其手本が他に及んで非常な弊害を醸す事があります。よく注意すべき事でありませう。或は學校や、會等で一人の我儘や高慢心が全校全會を衰微させ、罪なき人々を誤らせる事は常に見聞して居る處です。私共は各自が關係してをります事が私ゆゑに充分の發展が出來ずに居る事がありますまいか、自分の嫉妬や高慢心が誰かの苦痛となり其家庭の心配や病氣の源因となる事があるかも知れません。如斯罪より日々救はるゝ樣神に祈る必要があります。

次に深く考へねばならぬ事があります、それは他人が斯樣々々の事をするとか、しないとかで自分の表す可き同情を失ふ可きものではありません、物事を唯客觀的に觀て居るとさうなりますが、主觀的にとりますと他人が奢侈にながれて、善事に努力しないからと云ふて、自分も努力しないと云ふ如き事は出來なくなります。先程の西洋の紳士の言葉は、實に一理ありますが、然し人が善事に金を出さずに遊んで居るから、私も出さないと云ふ云ひ方は、神を信仰する者の用ふべき遁辭ではありません、世上一般は確にこの紳士の樣に申します。誰々が金を湯水に費ふ、遊んでばかり居る、盡力をしない、それだから私の樣な者が僅かばかりの事したとて、何の役に立ちますか等と申しましても、神を信仰する者はその樣な言葉を用つて、自分の爲す可き事を避けてはなりません、人が標準でなく神が標準である事を思ひ、又世間にても、其の富、其の地位、其の時間其の努力を善用して居る人が澤山ありますから、斯る人々に着目す可きであります、兎角吾々は自分の我儘の通る方へ理屈を附け勝ちであります、其處で基督が狹き門より入れよ、救に至る途は狹く、其門は小さいと云はれ、亡びに至る途は廣く、其門は大きいと敎へられたのであります、私共も今日何れの門を叩いて居りますか。

會　告

夏季修養會

本會主催の修養會は昨年の如く、神戸、仙臺の二個所に開催する事に決定せり。

神戸の部　指導者　志立タキ子

場所　神戸女學院　七月十六日(火)夕より七月廿三日(火)夕まで(七日間)

講師　佐伯理一郎氏　日野原善輔氏　上代淑子　宮川經輝氏　名出安太郎氏　釘宮辰生氏　山室軍平氏

聖書教師　今泉眞幸氏　城戸順子　西野貞子　中路ちか子

仙臺の部　指導者　三谷民子

場所　尚絅女學校　七月廿三日(火)夕より七月三十日(火)夕まで(七日間)

講師　笹尾粂太郎氏　新渡戸稲造氏　毛利官治氏　稱垣陽一郎氏　吉川起行氏　長尾半平氏他二名

聖書教師　吉川起行氏　岩澤時子　河井道子　渡邊百合子

右講師中未だ承諾の返信を得ざるもあり、又玆に紹介せざる講演者等あれど、只修養會の一般を掲げて諸姉の順備に備ふ

費用　聽講料(一圓)　滯在費(一日)八十五錢

順序書は六月上旬に諸支部に配付し得べし。

女子青年會の會歌募集
懸賞金五圓

一、種々の集會、親睦會等に使用し得る辭句

一、歌の字數は

六、六、六、六、七、六、七、六、八

一、節數　三節

一、募集〆切期限　六月十六日

一、作者は住所、姓名、校名（在學生ならば）を明了に記すること

一、寄稿の返戻を望む人は貳錢郵便切手封入の事

一、當選せる歌は「女子青年界」七月號にて發表す。

講演

神の國の面影

高知教會牧師　多田素

「然れば我儕強き者は強からざる者の懦弱を負て已の心に悦ばざるをも爲べきこと也、我儕おの〳〵隣の德を建んために善をもて之を悦ばすべし、キリストすら尚おのれを悦ばす事をせざりき蓋なんぢを謗る者の毀謗は我に及べりと錄されし如し、忍耐と安慰を予ふる神・爾曹にイエスキリストに效たがひに心を同うする事を予て爾曹をして心を一にし口を一にし神すなはち我儕の主イエスキリストの父を讃美し崇しめ給はん事を願へり。(羅馬書十五章一―六)

信者が一の特權として誇る事の出來るのは、生活の調子を常に改める標準を持つ事である。どんな堪能の音樂者でも一度ピアノなりオルガンなりに對し音律の調子を耳にせざる以上は、美しき聲を以て唱ふ事は出來ぬ、吾々が何を爲す時でも常に直す手本が必要である。汽車などで旅行をすると、御婦人方が帶と云ふ調法の物の中に何でも入れる、此調法なポケットを利用して小さな鏡迄入れる、十時間二十時間の旅行の間も自分の姿のくずれるのを氣にして鏡を出しては姿を直す、若しあの位旅をするにも、鏡を懷中して自分の姿を直す樣に、心の姿見があれば調法である、然るに吾々基督者はその姿見を持つて居る。聖書を讀み祈をする事に依つて吾々の姿を直す事が出來る、個人としてそうであるが、家庭の上より考へても家庭を其姿見にうつして其欠陷を直す姿見があると思ふ、これが教會である。其れを神

の國の面影として考へ度い。而して吾々の家庭を常に教會と並べて家庭が教會になる様に骨折らねばならぬ。もし一家の主人主婦が牧師であつたら、其家庭は國家の力であると思ふ。如何なる立脚點から教會を見るかと云ふと、私は家庭の手本としての意味から之を重ずる。然して吾々が家庭を教會の如くなさんとする時には、もつと教會に對しての念が深くなると思ふ。家庭に於ける盛衰浮沈を經驗する如く教會と云ふ團體生活に於ける自分を自覺する事が必要である。

基督は凡ての人の友達であられた。「吾れ上より上られなば萬民を率ひて來らせん」と云はれたる如く人類のあらゆる階級に於て同情があつた、玆に數ケ條を擧げて云ふと、エスには年齢に依つて同情の差異はない。エスと子供、之は如何に基督が子供を重じられたか、又エス御自身が青年であられたから、青年は申すに及ばず、ココデモの様な年寄にでも誰にでも年齢と云ふ事は超越された理解があつた。家庭の不和社會の反感凡ての年齢の差異に依るのである。吾々年をとつては若い時代の經驗を忘れ度ない若い者は年寄の心を理解し度い、もしこれが出來れば實にその家庭は幸福となるのである。教會は基督を中にたて、年寄と若い者とが友達になり、更に子供と年寄とが同胞であつて眞の同情の出來得る一の團體である。教會に於て強い者即ち長者が若い子供の心、青年の心を理解して信仰生活の出來る所である様に、吾々の家庭に於て年寄と若い者、嫁と姑の間に基督を中に立て、眞の理解ある事をエスの御生涯から學ばねばならぬ。

次に男女の關係であるがエス位婦人を理解された方はない。御在世の時よりして又十字架上につかれてより今日に至る迄、エスの御事業が如何に婦人を慰められたか、もしエスが無ければ世界の婦人は實に慘である、男子が婦人を知ると云ふ事は、如何に交際の上手な人でも、性の異なつて居る所にどうしても解し得ぬ秘事があるかも知れぬ、その理解のな

い處からして遂に反感が起り、苦々しき事實が實現されるのである、然し基督はこの人間の及ばぬ所の理解をもち、眞の意味に於ける友達として、婦人を救ひ、婦人を勵まし給ふた。男女の間に基督を挾み基督に依つて、或は基督を以て、吾等の兄弟姉妹を見得るとしたならば其處に初めて健全な男女の理解が出來る、教會は男女が集まつて團體をなせる所である、今申した樣に基督御在世の時に、基督を友とし婦人を友とされた美はしき男女の友情を教會に於て訓練し、家庭に於て夫婦の間に、兄弟の間に、年寄若い者の間にうつす事が出來れば、立派なものである。

年齢、男女の關係以上に劇烈なものは、貧富の關係である、今日の戰爭なども平たく云ふと、金持と貧乏人、資本家と資本のない者、權勢家と權勢のない者との間に起つた爭の樣なものである。貧者は意味なくして富者を尊び、富者は貧者に對して理解がないと云ふ世の中である。然し基督の富者と貧者に對する警戒と同情との精神は少なくとも教會に於て現はされて居る、基督は貧者に對してのみ同情がある樣であるが、富者に對しても多大の同情をもたれて、社會主義者の樣に貧者にのみの同情ではない。教會に於ては貧富の別なく實に居心地のよい空氣が漲つて居る樣に家庭も斯くありたい、主從の關係の如く、骨肉を分けた家族の中に他人が這入つて來ても、其の人が自分の家にある如く思ふ樣でなくては眞の家庭は出來ない。

エスの自ら稱して正しいと云ふ者（パリサイの人と云ふてもよいかも知れぬ）罪人に對しての有難い御同情を考へ度い。道德的劣等である者に對して、尊敬と信任と同情とを以てのぞまれた方が何處にあらう。罪人にも友達となり給ひ、其行先までも安じ給ふた。教會は實にこの意味に於て、極端に云ふなら牢から出たもの、倫落の者でも悔て教會に來ると唯大手を振つてずう／＼しく居ると云ふ意味ではなくして、家庭の精神になつて居れる所である、罪あ

る者を赦し、弱き者を助けると云ふ精神が家庭に滿ちねばならぬ。「種々なる惡事が家庭から社會に出るが、どうしても基督の厚い同情で罪人を扱はれたその精神が家庭になくてはならぬ。「隣の德を立てんが爲に善を以て悅ばすべし」と云ふ基督の心を以て心とし、エスの心に從つて弱者と強者と結構な關係をつける、吾々は色々な事に依つて敎育を受けるが自分を群衆の中に投じて群衆と共に進む事は、非常に力ある敎育である、一個人が力あるよりも群衆の力の方が大切であるもし自分が群衆の中に卷き込まれるならば、知らず／＼その群衆に感化される、流行と云ふのがそれである、誰か婦人の服裝など支配するか、下等な方から云ふと女優がするかも知れないが、都も鄙も共にのまれてしまふ、之が當世であるとなると一勢にそれについてしまふ。吾々は健全の意味に於て敎會と云ふ群衆に投じ、基督と云ふ指導者に從はねばならぬ、エスを中に立て丶精神的の進歩をしなければならぬ。常には基督敎の事を惡しざまに云ふ人も、息子が放蕩でもする樣な時には、基督敎に來る、故に團體の發展する事が必要であると同時に家庭が敎會を手本として、小さき敎會を家庭に作られる樣にしたい。

世間の人を見ると神信心をして居つても更にわからぬ者がある、それに就て私が今度出京の際痛切に感じた事がある。船は豫定通り出たが、天候險惡なので引返した、太平洋からの怒濤はげしくて、船室に居つても轉がる樣であつたが自分はさのみ心配もしなかつた、後で聞くと船長は心配して食事もしなかつたと云ふ事であつた。自分の安心は船の事も海の事も知らない無學の安心であつた、もし吾々の信仰が無心の安心なら價値はない、吾等は基督を指導者とし、基督に依つて結ばれて居る同胞の集まれる基督の影の反射せる敎會に於て固い團結となり、神の面影の現はれて居る敎會を家庭にやどし、目に見えぬ祭壇が家庭に設けられ、その祭官が主人、主婦に依つて現はされ度いものである。

（富士町敎會婦人修養會に　の說敎の大要　在文責記者）

基礎的の學問

新渡戸稻造

女子が盛に教育を受けると、其國が亡ぶと云ふ人が可なり多い。之には昔の例をひいて平安朝がどうの、奈良朝があれのと云ふのである。西洋でも同說をたてる者も少なくない、而し之は眞理ではない。織物で云ふと男子は經絲で一貫し、女は橫絲となりて綾を織り出し、光澤を加へるものである、故に女子が男子よりも高い教育を受ければ、所謂橫絲が强過ぎて、經絲が弱り、それで國が亡びるなどと云ふのである、之は意久地ない男子の云ひ癖である、例へば九州の收賄事件でも其罪を女に轉嫁させる、即ち何某妻君は虛榮心だから、其夫に何々をさせたと云ふ樣に、實は男子の意久地なくて卑怯な議論を主張する者も多いが、之は制するのが道であらう。

今回の戰爭に於て、女子に潛伏して居つた、偉大なる力が今迄發揮されず、使はれなかつたものが、使はれ出し、あれもこれも役に立つて來たと云ふ次第で、女子を新たに發見したのである、以前よりこの潛在せる力を論じた者もあるが、信じられず、今日明かになつて來たのである。それで女子教育が一變した。從來は良妻賢母主義を以て、日本獨特などと誇つて居た教育家も少なくない。然し如何なる文明國、野蠻國でも、惡妻愚母を目的とした所はないから女子は母とし、妻としての學問を、職業的に仕込事が多いのである。職業的と云ふ意味は、役に立ばよいと云ふ主義を云ふのである、確かに日本男子の教育は、機械を作る、道具を作る、役に立つもの

を作ると云ふ趣意で、學生も人生觀などは兎も角この學校を出て免狀をとれば、幾らくになると云ふパンを得る道の學問をして居るのが多いのである。女子一般の職業學校は、妻業母業と申す職業を習ふ樣なもので、これは惡くはないが、これ許りでは到底不可ぬ、どうしても基礎が大切である。然るに一時の間に合せを好む所から、基礎などはどうでもよいと一般に思ふて居る。飛行機にその例をとると、我國では失敗が非常に多い。其理由を聽くと我國は海と山との國故、空氣の現象に種々の變化があつて、空中の灘と云ふ樣なものがある、其故非常な困難があり從つて、失敗が多いと聽いたが、外國の飛行者がやつて來ると、若い女の子の樣な者でも落ちない。何かこれには空氣の現象だけでは說明がむづかしいと思つて居つたが、果せる哉、或る專問家にきいて見た處が、彼の云ふに、一般に日本の飛行家は機械の運轉は上手だが、基礎的の學問がない、それで機械の異樣の場合があつた時に、これを如何とも出來ぬと云ふたが成程と感じた事がある。それに宇宙を渡るには、職業的の學問だけで、根底的の學問がないと成功は危いものである、女子が高等敎育を受けるに對し、パンを得る道を習ふは元より大切であるが、其根底を宗敎に於いて人格修養を專らにする大責任のある事を、お互に記憶したいものである。

（東京女子大學開校式に於ける演說概略）

○

豐橋 木藤冷劍

毎號御恩寵の許に御揮筆になる有益なる冊子御送付下され有難く拜讀致し居り候陰ながら御會の前途彌々御發展を祈り居り申候扨五月號に御記載の聯合軍慰問繪葉書の儀東京はじめ各地の新聞にて壯擧を知り私も一部買求めたき希望に有之候又發賣期間は何日迄に候や男子廓清會員にても差支なく候はゞ友人知己へ多少なりとも賣申度希望に候が御會の御都合は如何なる都合に御座候や御手紙にて御一報煩し度伏して懇願奉り候誌代も七月は有之來月振替用紙頂き候はば一ケ年分御納め仕る可く候御會の御活動神國建設の爲め御奮闘貸し奉り候。

米國民の共勞的精神

布哇青年會幹事　松澤光茂

嘗つては一介の商業國、黄金萬能宗に歸依せる雑種合衆の寄合世帶として認められた所の米國が一度劍を取つて起つと二百萬の青年は勇躍して星條の旗下に集まる。二萬の飛行家を得るのに半歳を要さない。百萬の軍兵を遠く中歐の戰線に就かしむるために一年を要さない。そして戰線の軍需は潤澤を極めてる更に聯盟軍國の財政と軍需品を供給して倦まない。そして此の様な軍國多端の間にも政府はよく國民道徳の基調を把持し酒色に對する峻嚴なる律令を設け苟くも國民の精神生活を荒廢せしめ放慢ならしむる一切の禍根を絶し却つて緊張せる軍國の氣分を利用して國民道徳を洗練し、向上すべき事を忘れなかつた。

素町人から一城主へ……商業國から軍國に轉換せんとする羊腸危嶇の間髪をよく國民を啓發して此れを緊張せしめ膠着せしめ共勞せしめて此ふした國是の變轉の間に起こり勝な民間の不平騷擾等の影もなく一歩の遲滯も見せなかつた其の確實にして華やかなやり口、其の活動力の偉大其の律令の權威、考へれば考へる程合衆國民が謎の様に見へて來る。

今や合衆國は人道擁護の十字軍を起して中歐の戰線に其巨大なる陣容を整へたばかりでなく、更に聯盟友國の物資に對する不斷の供給をせねばならない緊要の地に立つてゐる此ふした巨大なる計畫を齎らして國民に二個の二重の義務を求むるのであるから政府がなし能ふ高壓の手段を取るであらふとは誰れしも考へて居た處である。然かも其の政府の使命を齎らして直接國民に訴へるものは例の印刷物…勸誘

奬勵の書翰…意匠をこらせる貼紙に過ないのである
私は始め此んな一片の手紙や印刷物でどうして國民が動くかしらんと思つた。所が實際に見ると吃驚した。假令へば徴兵事務局に行くと其の執務者でも醫官でも凡ては市内の富豪とか社會事業者とか醫師と言ふ樣な時間と勞力の餘裕のある人々がボランテイヤにやつてゐるのであつた。

戰時貯金債劵も各實業家銀行家がボランテイヤに自費を投じて盛に勸誘して歩く食料調節にしろ勞力の補充にしろ凡て政府の求むる處國民は喜んで自費を以て後援して居るではないか。

然かも此の偉大なる共勞の實力は其の根本を基督教の泉の中にひたしてゐるのであるのであると言ふと「また耶蘇教の我田引水」かと言はれるであらうが恐らくは米國の政府と國民の共勞的精神は其の國民生活の線緯の中に流れて居る所の基督教の精神に基づいて居ると言ふ事は戰時に於ける米國の偉大なる活動力を研究した母國の政治家、商業家、教育家乃至軍人に至る迄一致する結論である。

基督は嘗つて彼の教義を芥種に譬へパン酵になぞられた。一握の麥粉の中に一撮のパン酵を混ずるならば擧大のパンとなる事は諸君の熟知する處である共勞は芥種の如くパン酵の如く膨脹と彈力の混和した活力を以て生命する基督教の叫ぶ最も強くそして不斷の要求である。此教にして始て地上に天國を建設せんと欲せば只だ共勞相愛の力にのみ俟べき事を切言して居る私は今更に偉大なる國民にして始て偉大なる宗教を理解し得ると言ふ事を深く感ずる

「左の表は合衆國食料調節會にて定められたもので之を各家庭に配付され、主婦方は正しく守られて居るとの事であります」

皆樣のキツチンに貼つて置きなさい

月曜―麥粉を用いない日。三度の食事中一回は牛肉を用いない日。

火曜―牛肉と豚肉を一切用いない日。三度の食事中一回は麥粉を用いない日。

水曜―麥粉を用いない日。三食中一回は牛肉を用いない日。

木曜―三食中一回の麥粉を用いない食事と牛肉を用いない食事をする日。

金曜―前日と同じ樣にする日。

土曜―豚肉を用いない日。三食中の一回は麥粉と牛肉を用いない日。

日曜―三食中一回は麥粉と牛肉を用いない日。

（トモ誌轉載）

繪端書を賣りて

河井道子

聯合軍慰問の爲婦人後援會を起し、一萬圓の金額を婦人の手に依つて得んとしつゝある事は、既に諸姉の御存じの事でありませう。先づ四十萬枚の繪葉書を作り、之を以て其資金を得やうと計畫致しました。東京では其の賣り初めを五月一日に街頭にてせんと定めて居りましたが、折惡しく雨天で二日となりました。當日の狀況は既に新聞紙上で讀まれた事でありませうが、其日に學び得た實地敎育を御紹介致しませう。

隊は三つになり、一、日比谷。二、上野。三、九段と分れて、又各隊が幾組にもなり、一組二十人前後の姉妹が活働しました。朝七時より各事務所に集まつて、其手配をなし、思ひ〳〵の場所に賣りに出ました。或姉妹は朝より夕まで、或姉妹は午前だけと、兎も角も力の限りを盡しました。賣るは容易な仕事の樣で、なか〳〵容易な事ではありません、第一きまりが惡い、恥しいと思ふ人は到底成功しないのであります。又自分の服裝にのみ心を用ひる人も不成功であります。如何なる人が一番成功するかと云ふと、熱心と勇氣のある人であります。そして其爲して居る仕事を喜んでする人、又自分のして居る仕事の主義を固く信仰して居る人であれば、老人或は令孃に係らず、醜美に關係せず、衣服の何たるを問はず、必ず成功する事を見ました。元より新聞記者等の目に止まるのは、美裝した美人或は名家の夫人令孃、又は社會に名ある夫人達でありましたが實際繪葉書をよく賣つたと云ふ人は、確に今申した樣な勇氣と熱心のある人でありました。それで如何な

人が重に之を買つたかと云ふと、男の學生が一番多數を占めて居つた樣であります。女の學生も可なり買ひましたが、彼等の多くは既に學校に於て買つた者が多い爲に、街路で求めると云ふ事が割合に少なかつた樣に思ひます。一番同情のない顏をして又買ふ事もしないのは婦人であります。又田舍から出た樣な人は元より買ひません。丁度當日は赤十字社總會が、日比谷公園で開かれ、非常な人出でありましたが、この赤十字社の徽章を附けて居る人は買ひません(例外もありますが)之が一般の傾向であります、其處で何故婦人が斯る事に對し同情を表はせぬかと云ふ事が、よい研究の材料であります。

第一は新聞を讀まぬと云ふ事から起るのではないかと思ひます。この繪葉書を賣るに就ては、各新聞が之を早くより傳へ屢々世人に訴へた事もあります而し婦人が此等の記事に心を止めぬか、或は忘れてしまふかでありませう。

第二は彼等に聯合軍と日本との關係などは馬耳東風の樣な有樣であります。之れも世界の時局に對して婦人が無智である事を表はして居ります。只に戰爭に限らず、歐米の婦人が今日どれほど働いて居るかと云ふ事を知らないから、何も興味が湧出しないのであります。

第三は婦人の經濟思想が、同情などを壓へて居ると思ひます。繪葉書など不必要の物に金を使ふと損だ、それよりお菓子でも買ふか、お菜を甘くするとか、下駄でもましのが履るとか、小さな經濟が財布の口を閉ぢるのでなからうかと思ひます。尤も婦人には男子程小使錢でも豐でありません、其上に聯合軍に同情する主義などが解りませんから、只無駄に金を使つては不可ぬと云ふ、この儉約思想が彼等の冷淡な所以であります、之を見て私共は益々經濟と云ふ事に對して、只に算盤玉の勘定でなく、人情を入れた經濟を學ばねばなりますまい。例へば米國で今日パンを食べない日とか、肉を使はぬ日とか云ふ樣に、非常な經濟を各家庭でして居りますが、こ

の經濟は自分の貯金が殖えるからでなく、食べない丈の料が戰地に送られると云ふ處からして、倹約をするのであります。其故郵便切手の消印にさへ「食物を無駄にするな、食物で戰爭に勝」と迄書いてあるのを見ましても、國民全體が自分の慾を制して、他を助けねば眞の平和は來ないと云ふ事を、深く悟つて居るからでありませう。日本の婦人が節約するにしても、是非それに他愛心人情の分子を入れなければ、益々吝嗇の氣風を養ふ恐れがあります。

第四婦人の中には、繪葉書は買い度いと思つても路傍で買ふのが、きまりが惡いと云ふ遠慮から同情を表はさなかつた人もあるかと思ひます、之は深窓の婦人令孃には、習慣上止を得ぬ事でありませうが而し善事の爲には、きまりが惡い位の事はなげすてねばなりません、買ふのがきまりが惡ければ、賣るのは幾十倍きまりが惡いかを同情する樣になりたい「善を行ふに憶する勿れ」との聖書の言葉は何事にも當嵌る警句であります。以上は當日學び得た教訓でありますが、何を爲るにも自分の主義を自分から信じて、之を決行する勇氣がなければ成功は覺束ないと云ふ事を教へられたのは此日の賜であります。

商法にもあれ、教育にもあれ、宗教にもあれ、それがなかつたならば、失敗に終るのは當然であります、吾々青年會會員は、この會を深く信じ、必ず之に依つて青年女子を指導せねばならぬと信じて、熱心と忠實を以てすれば、其支部の聖書の組でも集會でも財政でも必ず成功すると信じます。

繪葉書賣りに出た者は、皆感謝して居ります、この經驗で私共は、辻に立つて居る新聞賣り、或は年の暮に鍋を持つて集金して居る救世軍等に興味と同情を深くする樣になつたと存じます。

「繪葉書賣代として數個の支部より代價既納されしも全部纏りたる上、次號に掲載す」

慰問デー概況

□三十分に十二圓　上野方面の一人は極めてやさしい態度で、而も必らず離さぬ猛烈なる手腕に膽を拔かれて、一人も買はぬ者はなく半時間に十二圓賣上げたりと。

□九段方面洋裝婦人　一人の洋裝せる日本婦人は、書生とか兵士とか云ふ連中を目星つけた以上は買はさねば逃さず、あなた達にして此處を素通りするとは心得ぬと仲々恐しい權幕なりき。

□日比谷方面の一隊　上野廣小路と、日比谷方面とに最も奇拔なる遣り方して賣りたり、そは三人一組となりて、買へさうな人にして買はぬ時は手をもて墻壁をなして通さず、此組も隨分成功せり。

□流石は教育ある人々　右の樣なのも流石は教育ある人々の働きぶり丈、少しも賤しき下品なる言葉や態度を見受けず、强請され乍もしとやかなるには何れも敬服したり。

□本野夫人の組は眞寫包圍の中にあり　三越方面に出働せる本野夫人の五六組は、新聞社等からの寫眞隊包圍に陷り、葉書を賣るに賣られず、寫眞の爲に道具の如く扱はれ、頗る迷惑の樣なれど是もなか〳〵慰問デーの好景氣を表する一なりき。

東京女子大學

東京女子大學は四月三十日左の次第により開校式擧行さる、內外來賓堂に滿ち、東京府より知事を通じて松十本、檜十本、欅十本、柿十本、栗十本の寄附ありたり。

午後二時　着席

一、奏樂　ミス、メルトン
二、祈禱　ベニンホフ理事
三、聖書朗讀　江原理事
四、勅語捧讀　新渡戸學長
五、報告　長尾理事
六、式辭　新渡戸學長

七、祝辭　　生徒總代　内垣郁子

八、來賓祝辭

文部大臣岡田良平閣下
東京府知事井上友一閣下
男爵澁澤榮一閣下
マクドナルド博士
米國大使モーリス閣下

九、君が代（合唱）

十、祝禱　ハリス博士

同校入學者は八十四名にして學校及學科別左の如し

	公立	宗教	私立	師範	其他
人文科	五	一	二		
國漢文科	四	四	二	一	
英文科	一〇	二七	二	二	一
實務科	二	二	三		
其他	七	三	五	一	

弘濟會

松澤つる子

「先年大阪市に大火ありし際、諸國より多大の同情をよせ、莫大の金額を寄贈し、其急を助けし事は當時の新聞紙上に委しく掲載されし所なり、市は其寄金を適宜の用途に當て、其剩餘を以て弘濟會なるものを組織したり、其目的は重に勞働者の爲、兒童教育を專らとし、特に幼兒を世話して兩親に日中小兒の心配なきやう、慈善的に彼等を助くるものなり。松澤つる子姉は弘濟會九條保育部主任にして、女子青年會の同情者なり、同姉の好意により弘濟會の一般を得たれば、玆に紹介し社會事業參考の資に供す」

□弘濟會

年齡。滿一才より學齡迄。

保育料。一日三錢づゝ毎日徴收。

貯金。額を指定せず毎日及月末になさしむ。

保姆擔任數。三才以下五人迄、四才以上十五人迄

保育時間。日の出より日の入迄。

休日。年中休なし。

支給。晝食、間食二回、大祭祝日及記念日には特

別の菓子を與ふ。
入浴。夏期は連日其他は家庭にて奬勵す。
理髮。男女相當の處理をなす。
衞生設備。一週一度專屬醫師の健康診斷を行ひ、病者を入院せしむ。
郊外散步。春秋に年長兒を郊外に引率す。
保育方法。年少兒は體育を主とし幼稚園時代の者は其程度にて簡易なる保育をなす。
父兄集會。父兄會慰安會年一回以上。
父兄の貯金。十五日及月末に隨意なさしむ。
家庭訪問。病氣見舞其他一般的に時々之をなす。
職業紹介。無料紹介及代書、身上相談。
家庭改良手段。裁縫教授及學生の復習。
職員修養。一ヶ月一回以上修養會を開く及臨時に諸種の講習會に出席せしむ。
證書。引受書。
入所條件。貧困者及夫婦共稼の者及相當の保育者なしと認めたる家庭の子女。

備考。專屬醫師は急病等の間に合ふ樣成可く近隣の醫師を賴み、尙多少看護の心得ある保姆の必要あり。
保育時間。は事情のゆるす限り長きをよしとす、（職員交代等の方法により）但し一日の生活に變化を與ふるに勤めざれば實行し難し。
休日。日曜祭日、一日、十五日。成可く多き方可なり休日多ければ其日を期して働くものなれども休日なければ時々なまける傾あり、又「よく働きよく遊べ」の良習慣を養ふの一端となり又親子親しむの時を多からしむる方法ともなるべし。
父兄會。多きに過ぐるは却て弊害あれども年三回位は開かざれば保育所の目的を達する事能はざるべし、形式的のものは無意味なる故、周到なる準備を要し而して精神的なるべし。
保育所。一般的施設を充分ならしめば、大いに勞力と金力を省略する事を得べし。
保姆。は同情ありて而かも理性に富みたる者にして保育事業に趣味をもち、研究心深く、壯健にして責

任観念の明確なる者たるべし。殊に兒童を規律的生活に導くの必要あれば、保育に深き智識を要す。
衛生。傳染病仲介所となる恐れは、學校以上なれば洗面其他につき大いなる注意を要す。

淪落婦人の爲祈禱會

東京婦人教役者主催にて五月十三日午前十時より午後四時迄神田三崎會館にて開かる。

午前ノ部

司會者　古田とみ子姉
一、奨勵　デグルート夫人
一、祈禱　會衆
一、献金

晝食ノ部

一、挨拶　矢島楫子姉
一、お話　ペンロット女史
一、お話　久布白落實姉
一、其他　有志

午後ノ部

司會者　川村薫子姉
一、獨唱　デーヴキー夫人
一、奨勵　河井道子姉
一、祈禱　デグルード大佐
一、献金　會衆

左表は久布白姉の調査に依れるものにして淪落婦人養成所とも云ふ可き場所、其處に雇はるゝ者、出入する客消費さるゝ金額の如何に多きか驚愕の他なし

引手茶屋	一二五
遊廓	五四八(以上持主一一〇二一)
娼妓	四八九二〇
客	六六四六六四五(大正五年度)
雇女	一六七一〇
雇男	五三五九

斯る場所に消費さるゝ金額は實に、二千三百八十二萬九千六百七十二圓(大正四年度)なりと。

總會の記

青山ゆき子

五月四日午後二時から會館で第十二回總會が開かれました。講壇の上に眞赤な躑躅が咲きこぼれて居るのも嬉しく、ひどい風を冒してお集りになつた皆樣のお顏にも喜びの色が見えました。二百七十三番の勇ましいメロディーに會は開かれました。司會者の聖書朗讀につゞいてミスマギーのヴァヰオリンが高く低く響き初めますと皆うつとりしてしまひました。河井先生の熱心な御祈りが捧げられ一同讚美歌二百三十四番を歌ひまして報告にうつりました、指命委員のお一人である志立御夫人から本年度に於ける新委員の御名前並に舊委員中に於ける異動などの御報告があり引き續いて加藤高子氏の事業に對する御報告が有りました。潑剌たる青年會の活動の有樣年毎に榮えゆく會の進歩の樣など伺つて居る私共まで言ひ知れぬ誇りと喜びを感じたのでございました次に新進女流音樂家として名を知られた下山英子孃が美しい御姿を壇上にお現しになりました、渡邊トリ子孃の伴奏につれて胸をそゝるやうなアルトのメロディーがまろぶやうにふるへてひゞきました、アベマリヤのなつかしい、餘韻を殘して壇をお降りになつた時にはもつともつと伺つて居度いやうな氣持ちが致しました、次で有馬典獄が落ちついた語調で犯罪と宗敎とを主題した有益な御話をお初めになりました、我國に於ける犯罪の增加を嘆じそれが豫防策としての宗敎の必要又婦人の責任の重大なる事を御自分の實際の經驗から御話し下さいましたのでほんとに面白く伺ひました、四百六十二番の頌榮で會は閉ぢられました。二階でうちくつろいで茶菓の御馳走になり三々五々家路につきましたのは豆腐屋のらつぱが町にせわしく聞える頃でございました。

送別會の夜

大橋房子

「さあ二列になるんですよ。二列になるんですよ。あなたお一人？　いけない〳〵。誰かお仲間をおつくんなさい。」

加藤先生と渡邊先生が二階中かけまはつていらつしやる。入り亂れてさゞめいてゐた美しい人波がさつと別れて、ぶつとほした廣間の窓ぞひにうね〳〵と蛇の樣に長い二列を作る。輕いマーチが階下に起ると、長い行列は水色の薄絹の美しいミス・ペーヂを先にたてゝ足拍子をとり〳〵梯子を下りてゆく。

二つの椅子を背中合せに幾列も直線的に並べられた階下の會場は何となく廣々してゐる。正面の壁に高く掛けられた「ボン・ボエーヂ」の額が今日の御主賓の門出を祝す一同の赤心を表はして、柔い春の氣が凡てのものゝ上を流れてゐる。

「皆さん、恐れ入りますがこゝにいらしつて順々にお皿をお受取りになつて、お仲間と離れない樣に向き合つて坐つて下さい。」

マーチがはづむ。歩みはをどる。一組又一組、行列はピアノの前から右に曲つて講壇の前をすぎ、突き當りの窓の樣な所で白い西洋皿をいたゞくと、前の一組の後を追うて備へられた席につく。マーチ彈く手の疲れる頃にはさしもに廣い會場も花の樣なレディー達でぎつしりになつた。いつか新渡戸博士御夫妻のお笑顔もうち混つてゐた。

「只今聖なる〳〵の一節だけ歌ひまして、それから洋食にお箸は不似合でございますがどうぞ御ゆつくり召し上つて下さい。」

加藤先生のお聲に滿堂の淑女は白いお皿を膝にして、心の限り聖なる主を讃めたゞへた。つゝましやかな、樂しげな談笑の中にいたゞいた輕い一皿はどんなにおいしかつたらう。

再びマーチがなる。滿堂の花一時に開いて、一組

又一組、行列は前の道を通つてコーヒーとお菓子を手に今度は以前と違つた席につく。行きなやむしんがりの方々を横目に見やりながら、コーヒーなしのお皿を高くかゝげて、ダンスの足どり面白く踊つて行く方もある。

「おすみになりましたら、今度は皆様お立ちになつて椅子をなるべく左右の端にお寄せ下さい。」

今までの食卓は苦もなくぬぐひ去られて、中央につくられた廣場の眞中にさつきから意味ありげに立つてゐた柱が紅白のリボンをさつと八方にひろげてたちまち緑の春野のメイ・ポールになつてしまつた。樂器につれて初夏の裝輕々しく踊り出でた一隊の少女は、メイ・ポールをかこんで胡蝶の樣にひら〳〵と舞ひ、最後に垂れ下つたリボンの端をとりあげて、紅白入り亂れつゝ美事に柱をリボンで卷きあげると一度中央の入口に踊り入り、再び踊り出て、ベビー・ダンスに可憐さを見せた。

たちまちメイ・ポールは取り去られ、椅子は正面向きに並べかへられた。蟬丸の仕舞の直線美に醉うた觀衆は、兎長者の滑稽さは笑はされ、次の幕内の整ふ間を胸そゝる樣なミス・マギーのバイオリンに忘れた。

「之は五十年後の女子青年會と題します。」

渡邊先生の御紹介で幕は開かれる。一同あつと意外の目を見はる。これは五十年後の本部の事務室だといふ。三人の事務服をつけた若い少女が一つテーブルをかこんで敏捷に働いてゐる。アレーの電話が頻繁に鳴る。去る所で負傷者があつたと助を求めてくる、すぐ救濟用の自働車を命ずる。八百人ばかり入る樣な結婚式場を貸してくれと言つてくる。第三號が手頃だらうと話がきまる。飛行機で朝鮮支部から人がくる。臺灣から夕涼みに飛行機で行くと言つてくる、工女が來る。アイヌが來る。待合のおかみが「ほんの少しですが」三萬圓ばかり寄附したいと言つてくるが「こちらではいかゞはしいお金をお受けする事はできません。」とはねつけられる。二時

から四時迄の入會申込時間になると正裝の侯爵夫人や、藥、法、醫學博士長井かほる女史が黒いガウンを引ずつてきて、何れも百圓の特別會員になる。宮城縣の山中から東京見物に出て來て案内を乞ふ會員の姑君もあれば、大きな孫をつれた小笹さんも來る。無線電話で難船の報知が來る、すぐ長崎支部から救助船を出す樣に命ずる。茶目と理想が混同して皆樣を大笑させる見上げた御手ぎは、平常の御修養の程も忍ばれて奥ゆかしい。やがて報告時間が來る。電話で河井、加藤、渡邊先生をお呼びする。お丸髷の加藤先生はおとなしくうつむきがちなのに反し、河井先生は五十年にしてお若返りになつたと見え、一番お若々しく、一番お元氣で、卓をたゝいて未來の計劃を論じ、首をかしげてやさしく皆さんの勞をいたはるあたり、よくもあゝ眞似られたものだと思ふ程河井先生そのまゝである。

第二幕は未來の修養會場だといふ、暗くされた觀覽席から夢の樣に森の中に浮んだ廣壯な丸屋根の建物が見える。靜かなピアノの音につれて、眞白な妖精の群が踊り出て引込む。と、月の光に魅せられて二人の少女が詩の樣な事を囁きながら通りすぎるピアノと東京青年會の歌に合せて又踊り出でた妖精の一群は踊り狂つて舞臺を下り、最後に新渡戸夫人とミス・ペーヂに一同の友情のしるしなる花束を献げる。かくして樂しい會は終つた。

新渡戸夫人はすかさず振り向いて一同にお答への御言葉を下すつた。「スピーチ、スピーチ」といふ。囁が何處かに聞えたけれど、應待にお忙しいミス・ペーヂのお耳にはとゞかなかつたらしかつた。

玉川遠足の記

平岩末子

五月十九日夜來の雨は晴れて異句同音に青年會日和と呼ばせるやうな好天氣になりました。

玉川行の面々は誰も誰も晴やかな顏をして、中澁

谷の玉川電車の終點に集り、昔のガタ馬車の搖れ方にも似た電車は約四十人の青年會員を乗せて走り出たのは午後一時を過ぎた頃でした。あらゆる學校あらゆる教會、あらゆる性格の代表者を乗せた電車は宛然パノラマの如く拓け行く初夏の田舍景色の中を勢よく縫ひ行く、車内には車が線路を軋る音さへ消さん許り、笑聲が絶えませんでした。

二時頃に終點に下りた。一同は思ひ思ひにパラソルに身を隱し、車窓から眺めた畦路を辿りて、田男爵邸の御門の前に着きました時自働車で先着のミスカフマンは私共を迎へて下さいました。

スヰッルの風景に擬へて設計されたとか聞く田家の庭園は只池を堀り築山等をしつらひて、日本風のみの風致を凝らしたものとは趣を異にして曲りくねりたる段々を登り登つた上に、帆かけ船を遠く瞰下す芝生の有る自然的に美しい御庭で御座います。青く澄むだ天空を仰ぎ、見渡す限り緑に萠え出た若葉の景色につゝまれた私共は身も心も爽々しく誰一人青年會員たる特權と使命とを思はなかツた人はなかつたで御座いませう。ミスホンダは何よりも先御持參の寫眞器を取り出して、Yの字形に一同をならべて寫眞を撮つて下さいました。其Yの字形の先頭には田家の幼い御孃樣、二番目は河井先生の御老母樣何と面白い對照で御座いませう。それから一同はミスカフマン、ミスパタソン、渡邊先生の指揮の下に數種のゲームをして時の移るも忘れてゐる間に加藤先生ミスホンダ中西先生は豫て用意のポンスもてポンス水の製造に骨折られ速製團子店も出來上つて居りました。

ゲームに疲れて汗拭く人々にとつて飲料と糖分は如何程歡迎されたか、それは模擬店の瞬く間の賣切の盛況が語つて居つたと思ひます。其賣上高の純益は今年の修養會に東京支部より代員を出す可き支出の一端を滿さんが爲でした。

摘みためた蓮華草を手にして一行が歸途の電車に乘りました時四方は靜かな夕景色に變りかけて居り

ましたが、會員の顔は喜悦と希望とに輝いて居りました。自然の景色の美の中に神に對する憧憬と渇仰を起して歸へる此車中に渡邊先生の夏季修餘會行の勸誘の御聲は相應はしく響きました。「はいまゐりませう」と云ふはつきりした答への多く聞こえたのも偶然の事ではないと思はれました。

團體としては解散す可き中澁谷の停車場までニコニコ遊ばし乍ら我々若いものどもの話を聞きつゝ何かと御心を御配り下さつた大西門倉の兩先生に對しては慕はしい御母樣のやうな氣持が致しました。

（大正七・五・二十日夜）

粉屋と花作り

文子

昔し昔し或る所に、正直なハンスと云ふ小男が只一人みすぼらしい小屋に住むで居りました。特に偉い點もなかつたが、其男の深切な心とその滑稽らしい人の好さうな丸い顔付だけは人目につきました。そして毎日自分の花園で働いて居ました。その花園の美しい事と申したら、恐らく國の極から極まで、尋ねても見られない程でした。撫子花やダマスクローズやカウスリップや黄バラ等の花が、それからそれと、更る更るに咲き亂れて何とも形容の出來ない位に美しく其床しい香は邊をこめて居りました。

澤山の友達の中でハンスの一番親しかつたのは粉屋のヒユーと云ふ大男で彼はハンスの園の側を通る時には塀に乗り掛つて、大きな花束を貰つたり、果物のなる頃にはポケットに梅や櫻の實を一ぱいつめる位仲好くありました。「眞の友人と云ふものは、何でもおもやいにしなければならない」と粉屋の親爺

は口癖に申しました、するとハンスは微笑み頷づいて、こんな高尚な考を持つて居る人を友に持つと云ふ事を心に誇つて居りました。近所の者は粉屋の大盡が自分の所に麥が百俵あつても、乳牛が六匹居ても羊の大群が遊んでゐても、ハンスには何もやらないのを不思議に思ひましたが、ハンスはそんな事には頓着なく粉屋を褒めるのを何よりの喜びと致しました。春も夏も秋もハンスは園で樂しく働き、いつも幸福でした、けれども冬が來ると大變です。市場に持つて行く果物とても花とても無く寒さと飢とで大困難をし、時には夕飯の物もなく乾杏や固い栗で凌いで居りました、其上斯ふ云ふ時には粉屋の親爺は一切顔を見せないので猶更淋しうございました。

粉屋は溫い火の側で氣持よい長倚子に身を横えて居る妻にかう申しました。

「雪の降る間はハンスの處に用はない、一體人間は困難の時は一人でおかれねばならない、訪問者や何かで邪魔しないのが反つて正しいのだから私は春になつてから訪ねてやらう。その時には大籠に櫻坊を呉れるだらう、すれば彼には何よりの仕合せなんだ」

妻は答へました。

「貴方は本統に考深い、貴方の友情を說かれるのを聞くといゝ氣持になりますよ牧師だつて又どんな立派な三階造の家に住むで、金指環をはめて居る人でもとても貴方の樣に立派な話をする人はありませんよ」

粉屋の末の息子は、

「ハンスさんがそんなに困難して居られるなら此處に來て貰つたらどうですか、私のお菓子を半分わけて上げたり、私の白兎を見せて上げたりしませう。」

「何と云ふ馬鹿な奴だらう、學校にやつても何にもならない、一體何を習ふてるのだい、ハンスが此處に來てごらん、溫い暖爐や湯氣の立つ夕飯を見たら羨しいに違ない。羨望と謂ふものは最も恐しい事で人の性質を害ふものだ、俺はハンスの親友だから、いつも要愼してやらねばならない、その上ハンスが、

こゝに來れば、麥を五六俵信用借をし度いと云ふに違ない、「友」と「麥」とは字が異つて居る樣に全く別のものだから、そんな事はどうしても出來ない」
「何と貴方は御上手にお說きになりますこと、私は本當に恍惚しますよ」
「一般の人間は仲々立派に行動するが立派に說明するものは極めて少い、說明の方が餘程六ケ敷くて更に優美なことだ」と親爺は云ひながらテーブルの向側の息子を荒々しく睨めました、息子は後悔して頭を垂れてしく／＼泣き出しました。
そんな事があつた冬が過ぎると、ぢきに櫻草が星の樣に咲き出しました。粉屋の親爺は妻にハンスを訪ねて來ると云ひました。
「まあ貴方は何と御情け深いんでせう、何時も人の事を考へて居るんですね、それはそうと花を入れる大きい籠をお持ちになりませんか」
親爺は籠をかゝえて山を下りて行きました。
「ハンスお早う」
ハンスは鍬を持つてニコ／＼して挨拶しました。
「この冬中は別に御變りもなかつたかね」
「おゝ、まあ本統によく聞いて下さつた、中々苦勞でした、もう春が來たので幸です、花も咲きました」
「俺の處でも冬中噂ばかりして、變りもないかと心配して居たよ」
「それはマー有難う樣で」實はあなた方は、私をもう忘れたんではないかと心配しました。
「オイ、ハンス何を云ふんだ、友誼には忘却と云ふ事は決してないんだ、高尚な事なんだ、君は人生の詩趣を解さないんだね……それはそうと櫻草が奇麗ではないか」
「エヽ、仲々奇麗です、こんなに澤山あつてうれしうございます、市長さんの御孃樣に賣つてそれで手押車を買ひ戻して來樣と思つてゐます。
「何、手押車を買ひ戻すつて、あれも賣り飛ばしたと云ふのかい、何と馬鹿なことをしたんだ」
「イヤ實は止むを得ませんでした、冬は本當に具合

がわるく私は全くパンを買ふお金もなくなりました。それで、外出着の銀ボタンを手はじめに銀鎖も大きい煙管もとう／＼終には手押車も賣りましたので、そいつも買ひ戻さねばなりません」

「ハンス、俺が手押車をやらう、そいつは餘りよく修繕してはないんだ、實は一才の車は失くなつてるし心棒は少し具合が惡いが、ともあれ俺は義俠に富むでゐるから大まかなんだ、皆はそれを手放すのは馬鹿な奴だと思ふだらうが、俺はそんな人間とは違ふのぢや」

「貴方は何と立派なんだらう、私も僅の心持だけのは返しだが、この木の板を差上げませう」

「木の板！　それは恰度納屋の屋根に入用だ、大きな孔があつて塞がないと穀物を濕らして仕舞ふんだうまい處に氣が付いたネ一番はいつも萬善を產むものだ、俺が手押車をやらうとしたので又君は僕に木の板を呉れ樣としてゐるんだ、勿論値打は手押車と木の板では比較にも何にもならないが友誼と云ふものは、そんなものではないんだ、オイどうか、すぐ呉れないか、今日から納屋の仕事に取掛り度いから」

「宜うございます」と云ふてハンスは納屋から木の板を引つ張り出しました。

「こいつは餘り大きくないなあ」と粉屋は申ました。

「これじや納屋をなほすと手押車を直す板が殘らないかもしれない、然しそれは勿論俺の落度じやないそこで手押車をやる代り花を頂戴しようかな、サア籠がある、どうかぎつしり一杯くれ給え」

「ギツシリいつぱい！」ハンスは悲しそうな聲を出しました、大きな籠なので、それに一杯やればもう市場に持つて行く程殘りつこはなし、すれば銀ボタンを買戻すことも出來ないと心配しました。

「オイ俺は君に手押車をやつたのだから、チツト許り花を貰つても得ではないんだ。もし得した處が友情、イヤ眞の友情は利己心から離れねばならない。

ハンスは叫びました「我親愛なる友よ、我無二の友よ、どんな花でも差上げます、私も銀ボタンなど

よりも、はやく、さうした立派な見識を欲しいものです」と、そして畠に行つて美しい櫻草を摘むで粉屋の籠にいつぱい、いれました、粉屋は板を肩に籠を小脇に抱えステコラ出掛けました。ハンスはいかにも愉快そうな顔をして手押車を貰ふのを樂しむで居ました。

次の日、忍冬花の垣根を作つて居る時、粉屋の聲が聞えましたので梯子から飛び居りて來ました、見ると彼は大きな俵を擔いで居りました。

「ハンス君、この俵を市場に持て行て吳れないか」

「ヤア殘念な事には今日は大忙しなんですよ、葡萄にも棚をつくり花には水をやり草は皆刈らねばなりませんから」

「あゝそうか、でも俺が手押車をやる事を思ふとそいつは餘り友達甲斐もないじゃあないか」

「いや友達甲斐が無いとは全く情ない」と家にかけ込むで帽子を被り大な俵を肩にかけて出掛ました。路は恐しい程の砂塵でした、ひどい暑さのことでハンスはすぐ疲れたが勇氣を出して遂々市場に着きました。なか〱高く賣つて途中追剝に遭ふてもいけないと早速引返しました。

「どうも激い日だつた、でも粉屋に斷らないでよかつた、彼は最も好い友で、其上手押車まで吳れると云ふのだから」

翌日朝早く粉屋は、麥俵の代金を取りに來ましたが哀なハンスは疲れて未だ床の中に居りました。

これは言語道斷だ、君は非常に怠けてゐるネ、俺が手押車をやるのを考えれば、君はもつと働く筈ぢやないか、怠惰は一大罪惡だぜ、俺は友人をのらくらさせ度くないのだ、俺はごく隔なく話をして居るから氣にかけて吳れるな、考えてる其儘そつくり云へなければその人は友達の資格なしさ、誰でもうまい事やお世辭は云ふが、眞の友達はいやな事でも、ずん〱云ふのだ、そして義しいと思へば反つて惡口を云ふのを好くのだ」(つゞく)

少女欄



東京幹事ミスペーチ(中央)送別會の夜

乙女

(一)いちじゆく香へる　ユダの夕風
青葉にてりそふ　火影をとへば
ともしをかゝぐる　乙女いつたり
ともしの消えたる　乙女いつたり
やがてあるじの見えて
うたげのむしろに
いりしものは　そなへありし
乙女ばかりぞと
きゝしをしへ　のちの世のみかは

(二)うつし世にすめる　學びの乙女
かげならぬ業に　いそしむ乙女
ひかりとなれとの　聖言かしこみ
ともし火かゝげて　いでゆく乙女
よしやみち遠しとも
あぶらをさしつぎ
いく里をも　いく年をも
わが世はつるまで
光の子と　ならむとぞおもふ

(捜眞女學校卒業式の歌)

もだえ

野邊地天馬

薄暗いランプの下に古ぼけた机を出して、卒業と一しよにあんまり使はなくなつた硯箱をのせ、春子は澄子さんへの返事を書かうとしたら、お母さんは針仕事の手をやめて、

「私からも宜しく申しましたつて書いておあげなさいね、そして夏休にお歸りになるのをお待ち申してゐますつてね」

春子は「えゝ」と輕く承けながら、

「澄子さん、こないだのお手紙はあんまり短くて何が何やらサッパリわかりません、そしてドウなすつたといふのです、ドウゾよく解るやうにお知らせ下さい、罪を悔改めたといふのは何のことです、あなたの様な柔しいお方がドーして罪なんてあるもんですか……」

と筆を起し、それから文末の方にお母さんの傳言を書き加へ、翌朝、學校へゆく弟に頼んで郵便函に入れさせました。

すると四日目に、またお手紙がまゐりました。無論、澄子さんからです、こんどは長いものらしく封筒がふつくりしてゐます、春子は開けて見るのを樂しみに、晩方の用事を濟ましてから封を切りました。

まづ最初に目に留つたのは、

「この手紙を出さうと思つてゐたところへお手紙を頂きました、おたづねの事がらは委しくこれに書いてあります」

といふ附足の文句、春子は「おや、まア」と心の中に思ひながら本文を讀み初めました、卷紙は次第に膝の上にひろがりました。

その中に小さい妹を寢かしつけたお母さんが次の室から出て來ましたが、春子が悲し相な容姿して聲もたてずに讀んでゐるのを見て驚きました。

「お春や、あ、如何したんだよ……心配なことでも

書いてあるんだね」

春子は沈んだ調子で、

「え、ぢやないけど……」

「澄子さんは御病氣ぢやないかね」

「いゝえ」

と返事したまゝ深く考へるやうな様子しながら、讀んでゐます、お母さんは氣を揉むで、

「ね、お春ドウしたのだえ」

といひますから、春子は、

「お母さん、でもね、私悲しくなつて了ひますわ、澄子さんがいろ〳〵私にお詫びしてゐらつしやるんですもの……」

「何を？　何にもそんな事は無いだらうにねえ」

「ですから、私……、一體これは斯いふ譯なんです先達のお手紙にね、教會で集會があるつて書いてあつたんでせう、その集會は非常に善い集會でしたとさ」

「ふむ」

「でねえ……それよりか、お手紙を讀みませう――私は三晩とも集會に行きました、最初の晩は基督教の救といふお話で、救といふことはお金やお米をやることでない、その様な救ならば慈善家にも出來る、けれどもキリスト教の救は心の救で、靈魂を罪の中から救ひだすことだ、お金持はお金やお米を助けられる必要はないけれども靈魂の救を受ける必要がある。……學者でも學生でも救はれなければならないといふお話。私はまだ靈魂のことなどは解りませんから、あんまり面白いとは思ひませんでした、ところが二晩目には奴隷の解放といふお話でした、まづアフリカの黒坊のあはれな話があつて私共は丁度その奴隷みたいな者であるといふのです」

私は不思議なお話よと思ひました、すると説教は罪人とは監獄にゐる人ばかりでなく、天の神様の前には誰一人として罪人でない者はないといふ

のです。
さて私は罪人だろうか、ドウかと始めて自分をかへりみて見ました、ところが何となく不安心になつてまゐりました、それからいろ／＼のお話を伺つて歸つたのですが、氣になつて眠むられません、そのうちに私のこれまでの事がいろ／＼目に浮んで來ました、……アヽ私は家にゐた時どんなに我儘をしたか、お父さんお母さんに不孝をしたか弟妹に意地惡るをしたか、また貴女に對しても意地のわるい事をいたしました、時々は自分の家をほこつて貴女を見下げたこともあります、横濱に來るときも、やさしい貴女に對してドンナにこれ見よがしにしてゐたか解りません。
卒業の時、あなたよりも成績が惡るかつたので口惜しくてたまらなかつたのが、得意で横濱に來られるので漸く仇返しでもした心持でした、私はナント淺はかな罪深いものだつたでせう、いろ／＼考へれば、あなたと一番仲がよかつただけに一番貴女に對して濟まないことを澤山いたしました、ねドーゾ赦して下さいね、春子さん……」
こゝまで讀んで春子はまたも耐えられなくなつて涙をポタリ／＼と落しました、お母さんも澄子さんの飾らない心持に動かされて涙ぐむでゐます、春子は漸く讀みつゞけて、
「それから三晩目には、今は救の日なりとのお話で、キリスト様は私共罪人の身代である、罪ある人は此救主にお頼りなさい、今は救の日でありますから祈つてお縋りなさいといふお話でした。私はこれまで日曜學校で夢中で伺つてゐたことが、此時何もかも活き／＼としたものになつて、ようく解つてまゐりました、そこで兼ね／＼教へられたキリスト様を信じ、罪深い私をお救ひ下さいと祈りました、そして學校に歸り、寢床に入らうとお祈をしてゐますと、私の心になんとも言へない安心とよろこびが靜かに湧き立ちました。
私はたしかに祈に答へていたゞきました、それで

つぎの日大急ぎでお知らせの手紙を差上げたのです……」。

翌日、春子はいつもの様に畑にゆきました、けれども澄子さんのことが思出されて仕事がすゝみません自分の胸も押へられるやうになりました。そして思はず太い溜息を吐いたりして、

「ハテ、私にも罪があるだらうか」

と考へ出しました。

畑の麥は威勢よく穗を天に向けてゐます、初夏の強い日の光に柏岳が美しく見えてゐます、けれども春子の心はいよ〱悶えてまゐりました。(續)

勇敢なる少年

外山信子

昔、和蘭のハレームといふ町にピーターと申す少年が居ました。彼の父は水門守でした、水門守といふのは一體和蘭は土地が水平面より低いので堤を廻らして水を防いであります、其堤邊にある水門を開封するのが其役で夜は水門を〆切てあります。

扨或朝、ピータはお母さんから堤の向に住で居る盲目の爺さんにお菓子を持て行く事を言附りした、そこで彼は口笛を吹き乍ら勇で出掛けました、御爺さんの悦だ顔も見、御使も濟ませ、急で歸へる中に日は暮てしまひました、御母さんも嘸心配なさるだらうと思ひ走け出しました其時何だかブク〱いふので見れば驚いた事には水が堤の穴から流れて來るのでした、「やあ大變、水が漏て來る、誰か來て呉れ」と大聲に叫びましたが何の答もありません、ピーターはお母さんへお土産にと道で摘だ菫も打捨て兩手で穴を塞ぎました、すると水はずつと後へ戻りました。然しこれも一時は保ちましたが夜は深けて來る寒くはなる、彼の手足は痺れ、身體は痛み出しました、それでも彼は勇氣を皷し固く抑へ乍ら助を乞ひましたが誰も來ません、流石のピーターも怖しくなつて家に居る御父さん、御母さん、兄弟の事を思ひ

我知らず「御父さん、御母さん」と聲も震へて泣き出しました、然し勇敢なる彼は若し自分一人が今、手を放して行てしまへば家族の者許でなくこの町中の人が洪水で苦む事を考へ痛さも堪へて、寒い一夜を明かしました。

翌朝早く、其處を一人の職人が通り懸りました、堤の向に何だか呻聲がするので行て見ると、少年が横はつて居ます、職人は驚き彼を介抱し數名の仲間と堤を直て此勇敢なる少年を家の方へと運ました。

ピーターの家では彼が歸らないので皆案じて居りました、殊に彼の母は寢ずに待つて居ました、翌朝雨戸を明け乍ら「ピーターは私の許なしでは泊るなんて事はしないに如何したのかしら」と獨言を云て居ると、下で「御案じなさいますな、坊ちやまは、無事で我町を救て下さいました」といふ聲がするとピーターは三人に連られて入つて來ました。

そこで兩親初め家中の者は彼の無事であつた事を悦び、特に彼の命を御護り下さつた神樣に一同で感謝の祈を捧げました。

犬の献金

英國に於て子供が日曜學校や小學校から寄附金を送つて青年會を助けますが、此方ばかりでも、一萬八千五百〇六磅に達したといふ好況です。で中には其れに連關して面白いエピソードも少くないのです。そのうちの一つ。

一人のぴつこの女が或時ロンドン、タイムスに寄書して曰く「聞くならく頃者獨逸のカイゼルが演說をして云ふのには、今や獨逸國内に於いてはたとひ一匹の犬たりとも護國の任に當らざるべからざる秋だと云つたさうな。若しも獨逸の犬にして護國の任に當り得るならば我國の犬とても其任に當れない譯はない不肖こゝに飼犬一匹を持つて居る。その名に依つて差し當り金二十四錢也、爲護國寄附しやうと思ふ。大方の紳士淑女願はくば之に倣へ」

さあ、それからといふもの出るは〱、ジョンの献金かジャックの献金とか云ふ名で集まつた額が勿驚千磅、此一萬圓の犬の献金は早速青年會へ送られ、佛蘭西戰線に一つの立派な「ハツト」として現はれたといふ話であります。（開拓者より轉載）

彙報

本部報告

定期中央委員會を五月十一日會館にて開く、井深委員長微恙の爲缺席され、志立夫人司會者の任に當る。出席者少數なりしは遺憾なりき。

志立タキ子、星野愛子、ミセス・フェルプス、ミセス・クレメント、渡邊百合子、堀順子、ミス・マシウ、河井道子、ミス・ガンタ、ミス・オルチン、ミス・ホンダ　（以上出席）

前會に於て紐育より井深委員長にあて、質問し來りし書面に對し、特別委員より返書を出せしが、尚之に附加すべき要件の決議ありたり、即ち東京王子の事業に對する資金と、東京市の第四寄宿舍を建築する事及本邦の基本金、以上二件の提出ありたれば、之を紐育より本邦に申出づる事を可決したり。

ミス・マシウ　五月中旬より夏季修養會迄關西に止まり、重に大阪の支部を援助せん事を申出たり。

河井幹事。五月は重に横濱支部の應援に勤め、六月に至りて、事情の許す限り支部を訪問し、特に修養會打合せの爲仙臺に出張せん事を申出ず、尚男子の青年會にては、六月十九日より七月六日迄、東京に於て幹事養成所の爲講習會を開催の計畫なれば、幹事は成可く此會に出席し、又他の事業とし時間の許す限り出席せしめて、將來の參考に供せんとの希望なり。

大阪梅花高等女學校女子青年會は、本部に加名を申込む。可決す。

雜誌。繰越高四圓〇七錢、初めて殘金を見たり。委員中病氣其他の事故にて欠員を生じたるを以て、指定委員は此際數名の委員を擧ぐる事となりたり。秋季に於ける中央委員會にては必ず多くの出席者あらん事を誓いて散會す。

梅花女學校青年會　我が梅花女學校女子青年會は、二三年前に始めましたが、創立者が會設間もなく病に罹りました爲、會則を完成する事出來ず、今迄加

入致す事が出來ませんでした。今度別紙の如く會則を編成致しましたから、何卒御覽の上本部にお加へ下され度お願ひ申上げます。次に過去現在の有樣を少しくお話し申上げます。是迄每金曜日午後二時より三時迄會を催し、一ケ月の第一、第三に聖書の組を開き其時には卒業生教師より教はり、第二の金曜日には講演會を開き名士の御話を伺ひました。今迄には山室軍平氏、河井道子女史、山口金之助氏、阿部清藏氏、二宮牧師等より、御話を聽きました。第四には文藝會を開き、生徒各自が談話したり、朗讀したり對話したり、音樂をしたり等して、練習の傍ら樂しく過ごします。現在では第一講演會、第二、四聖書組、第三文藝會となつて居ります、そして又來る可き金曜日の爲に、劍持牧師と云ふ方にお賴み申して有ります、次に日曜學校の事に就て申上ますと去年の十一月より、小さいながら凡て我が會が、負擔する豊崎日曜學校と云ふのを開き、現在生徒數は四五十名主に小學校三年生以下の小供にて、每土曜日一時より二時迄致します、又以前よりの弘道館には矢張り教師を會員中より送り、責任を以てなし現生徒數は百五十名の多數にのぼり、家屋狹隘を感ずる樣になり、誠にこの道の爲喜ぶ可き事と存じます、今後も增々努力せん事を期して居ります又昨年の春には、博愛社の生徒を我が校庭に招き、憐れなる彼等に茶菓を呈し、遊戲をなし出來得る限りの樂みを與へました。又同十一月には感謝祭を開き、生徒各自色々のものを供へ、神に心より感謝し名士の御話を聽き、その供物を博愛社へ持ち行きました。その量は荷車にのせ切れない程多くなりました。又仕事委員は每日曜日病院等に、花、小冊子等を持ち行きましたが、この度は仕事部を大いに、擴張せんと努力して居りますから、又近き將來に何か御通知申上げる事が出來る事を喜んで豫期して居ります。さて現在會員數は約百四五十名と存じますが、はつきりした事は次に御報知申上げますが、前學期は凡そ百名位でしたが、會員の一部が卒業しましたの下

新三年より多くの新會員を得ん爲め、前週の金曜日に歡迎會を開き、我青年會の目的事業を話し後、面白き餘興等を致しました。

同志社女子青年會　先日京都の事につきて少し調ぶるやう御依賴を受け候まゝ不取敢左の事項を御通知申上候。何かの御役に立たば結構と存じ候。尚此他の事にて何か問合せとか、調査等有之候へば、御遠慮なく仰下され度、青年會の爲ならば出來る限りは致す積りに御座候、此秋より京都市の支部の出來候樣今より待ちかね居り候。（平田千代子記）

校名	生徒數	女教師數
京都府立女子師範	二〇〇人	八人
同　府立第一高女	八八七	二五
同　第二高女	七〇三	一六
京都市立高女	七三七	二〇
私立菊花高女	二一〇	七
同　淑女高女	二一一	一二
同　精華高女	一八八	一二
同　平安高女／同　平安女學院	一五三	一三
私立同志社女學校	二三八	一三
同　京都高女／同京都裁縫女學校	四四〇	一三
同華頂實科女學校	一六〇	六
同京都高等手藝學校／同京都高等女子商業	四三三	一八
同家政高等女學校	二八三	一四
同　和洋技藝學校	一四八	六
同　正教女學校	不明	不明

看護婦。其住居場所は二十四ヶ所にて人員六百人、

工女。鐘紡の工場に於て職工男工共三千六百人の中約半數は女工なり、此他主なる工場は九ヶ所にて其女工數は約八百人即ち鐘紡一ヶ所の數に略同なり。

梅花女學校青年會　先日は繪葉書四百枚御送り下さいまして有難う存じました。少しも左樣なことを存じて居りませんでしたので、其準備もして御座いませんでしたし、丁度、十六、十七日が四拾週年記念式が行はれます爲、校生一同其準備に追はれ充分にお助け申す事が出來ない事を遺憾に思つて居ります。

而し手許にある分だけでは賣り度と思つて盡力して居りますから、十六日にはまとめてお送り致します、さて私共の學校では女子青年會を讀まない方が非常に多く御座いましたので、御希望の方を調べて見ました所、拾名お屆がありました故本日金八圓振替で御送附致しましたから、來月から雜誌を御送附願ひます。（小島久子記）

廣島女學校女子青年會　會員は前の如く本科三年、四年、五年、實科二年、三年、師範科一年、二年を以て組織せられて居ます先日委員の改撰がございました。そして不用なる部は省き委員は一人宛と定め必要の場合に選擧する事に致しました。改選委員の名は左に記載致します。

會　長　塚本千惠子　副會長　濱崎かほる
會　計　巻幡みつの　書　記　珠川　澄子
音樂部　服部　春江　祈禱部　添島　たみ
圖書部　今城　はつ　矯風部　山本　なか
仕事部兼園藝部　山本なか子

他の諸部は今必要なき故廢せられました。各委員は神樣の御助けを信じて、今年度は前年度に勝りたる好成績を得やうと大いに奮つて立つべく決心致して居ります、加ふるに今年は本校の出身者にて英國青年會を親しく觀察せられた鹽見先生もお助け下さるに依り我等は一層の力と勇氣を得て着々其任務に勉勵しつゝあります。

其後鹽見先生と御相談致し、青年會の集會は一週間に一度宛前の如く開く事に定めました。日曜日には午後六時から、青年會の祈禱會をする筈になつて居ります。新學年と共に寄宿舍の規則が嚴重になつた爲、大いに矯風部の働くべき事又祈禱部が活動して毎夕の集會及び木曜日の祈禱會をも少し意味ある集會としたいので、青年會が只名ばかりでなく實あるものとならん事を切望するのであります。今や世界の大勢を見るに、大亂の渦中にあつて出兵を促しつゝある現今の社會に於て、我等は唯一女學生と云へども、今少し宗教的觀念を増す事が大切だと存じ

ます。而してこの青年會の實を擧ぐる事を希ふ我等の心を何卒同じ心の人々に傳へられ一層の光輝と實ある青年會とならんことを、皆々樣のお祈りの端に御加へ下さる樣希望する次第であります。

又唯自分の品性の上に止らず、延いては他に及ぼして日本に神の御國の一日も早く來る事を期待して大に奮つて會の爲に盡力する積りでございます、日本の女子青年會の發展した事を神樣に感謝致します願はくばいや增しに實と光輝のあらはされん事を偏に祈つて居る次第で御座います。

東京女子大學婦人科講演

日本の鐵道に就て　長尾半平
六月八日、十五日（午後二時）

家庭に於ける秀吉と家康　辻善之助
六月廿二日、二十九日（午後一時半）

友垣

米澤　上野俊子

○

只今位二十冊の書物（求癸者に與へて宜きもの）が再び讀まれ次から次へと巡回されて居ります小數なりとも其小數がまた小數に段々御數へが傳はりませう讀み終つた時感謝の手紙が參ります時祈らずに居られません與へられた友を失はぬ樣にしたいと祈つて居ります去る二十一日の午後二時から小供の小會を開きまして尋常四年以下六才迄二十一名集りました子供等で輪を作つて讃美歌を唱つてお話を二つばかりきかせ少し遊ばして後て新しい讃美歌一節敎へて後お菓子を少しづゝ與へ共に樂しみました、子供等の喜び顏見ますと私は自分を忘れます。昨年より「青年界」を讀み居ります某姉妹は其人の母が重病であつた時にても彼女が强い喜びを以て働く樣子を知らせた手紙をよこしました。

レーガン先生九月にお歸りなくしかも五六年もお歸りなきよしよき試錬の時でせうけれど悲しう御座います、上野秀さんが渡邊ゆり子樣の聖書の組に今日からまゐるよし私は其爲にも祈り居ります。

聯合單獻冊繪端書を二百枚程賣らして戴きたいと思ひますから御送り下さい。結果は分りませんが立派な事業ですから、少しでも御手傳ひしてみたく存じます。

○ 神戸女學院　米澤尚美

先日本神戸女學院の青年會例會には「成長」と云ふ題の下に盛なる集りを開きました。この春の時に於て人間がます〳〵進歩しなくては駄目である其を深く自然を通して教へられます其には先生の四月號の會説い我等の欲望と云ふ題のもとにお書き下さつたあの御教へを深く〳〵心にとめなく必要のある事を信じ幾度となく拜見致し自分の欲望が果して如何なるものか又は一圓の金と二三錢の銅貨とのどちらの方を私は常に要求して居るのかと云ふ事を考へて居ります大阪東京の活動に富める有様を拜聞致し陰ながら喜び居りますこの様な事を聞き又知りますと女學院の最も活動しなくてはならぬ事を知ります會の一ケ年間私如き者が役員としてこの貴き事業の一端をしなくてはならなくなりました然し與へられた事は感謝の精神を持つて致しますつまらぬ私共でも確かに神はお助け下さいます其は信じます今學期は多くの先生に新入生を青年會員とし一月〳〵に事務例會を開きまして青年會の發展を進め度との私共の考へて實行致す様に定めました當地にてこの度も又修養會をお開き下さいます事は如何に幸な事でせう然しその爲に私共は出來る丈の心の準備を致して待つて居らなくてはならぬと存じます。

○ 徳島　原田芳

此度私事同志社を出て早々當徳島市縣立高等女學校へ赴任致す事と急に決定致し意外にも海を渡り來りて徳島の人と相成り申候知る人もなき地に如何過し得べきかと不安に滿されて來り候ひしに不思議にも高橋久與様と机を並べて教務を取る事と相成り神様のお惠みを今更ながら深く感謝致し居り候御存じの通り大きな學校に御座候へば仲々忙がしく無經驗なる私にとりて業務は身に餘る程に候へども高橋様は一々御親切に御教へ不され候間誠に嬉しく候。

當地にも青年會支部ある事を承り誠に嬉しく心強く存じ居り候當會の爲幾分なりとも盡し得るならば如何ばかり幸ならんと存じ候。

○ 長崎活水女學校　小澤ため

四月早々當長崎市に來り早速高森先生、那須先生、ツルーマン夫人に御面會致し皆様方より色々と御親切にあづかり居り候、又奥先生御夫人に御目にかゝり青年會のお話やら河井先生の御噂さなど申し上げ先生には昨年此地へ御出で下さ學校にて御講演下されしと伺ひ又御目もじの日あれかしと祈り居り候私の受持は女學部全體の家事裁縫及五年の擔任にて經驗淺き私には忙しく存ぜられ候來る七日にはペーヂ先生愈々御歸國遊ばさるゝ由誠にお名殘惜しく存ぜられ候、女子青年會の發展を祈り居り候。

○ 津山高等女學校　陶山よね子

まだ間に合ひますなら慰問繪端書を當地で賣つてみようと思ひま

す、東京から歸りました妹がまだ澤山殘つて居ると申ましたので氣になります校長に御願して學校の生徒に寄附の精神を吹き込み度いものであります然らすれば五六百枚は賣るかもしれませんそうして少し有富の家を廻つて依頼してみます。

〇　米澤市　本間はる

母の病は老年の事故（もう六十一歳ですもの）心配致しました母の初めて發病致したのは忘れもせぬ三月の六日でした朝起きた時に何となく母の言葉が聽き取れないのですそして左の手が利かないと申しますので早速醫師に癒て頂きましたすると私共の思に違はず輕い中風病との事でした其後別に惡くもならず却ていくらか快方に赴きましたから此分ならば二十日過ぎたら治るだらふと思つて居りました處が三月の十九日の夜から俄におかしくなつて何につけても笑つて許り居るのですそして笑ふ度に口のしまりがなくなるのですそんな狀態が一週間も續きましたその間私は隨分苦しく感じました神樣の深い聖旨をも考へる心の餘裕さへ持つ事が出來ませんでした五月號の女子青年會雜誌にて田川樣のお話を承り實に〳〵羨しく存じ自分の不甲斐なきを恥じましたそして私はもと〳〵强くならねばならぬ、切に感じましたその後母の病も日増に宜り勝ちで只今ではまだ口は不充分ですけれ共手は何ともなくなりました母の病氣中上野俊子先生はいろ〳〵と御手紙で母を慰められ色々の善い事を敎へて下さいました。

〇　德島　高橋久與

當校も此二十八日は女子師範の十週年（創立）に當り其際大した祝ひごと致す積りにて只今は毎日其準備に皆多忙に取りかゝり居り候一々はとても先生へ筆とる事は覺束なしと考へ今日は一寸失禮にもペンにて御免を蒙り申候御話申上げ—當地の金森氏の大傳道會も五月四日頃から四五日の豫定にて皆々其準備斷書とトラクトの配市に餘念なく働き居り候何卒善き種子が此地に蒔かれて善き收獲のある樣御此機會に御名に入れられた當信徒も一層の覺醒をなす樣私の如き弱きものは强くなる樣只々一心に主の御心の程を願ひ居り候先生どうぞ此日をお覺え下されて御祈りの端にお加へ下され度願上候女子青年會も新學期に入り一層新しき勇氣と力をそへてはや三度目の集りを催し申候處一年生の小さき者も入會致し無邪氣に喜んで出席致し居り候兎に角もつとよき方法をとり此よき福音の會を盛に致し度ものと存じ居り候。

〇　東京　外山信子

夏期修養會は如何になりましたか私は暇と旅行の友達があれば仙臺の方へ來り度と樂みに存じて居ます修養會のため金儲はないのでしよか。私の知人三名を御紹介申上ますから雜誌の見本をお送り下さいまし。

消息

○三谷民子　東京女子學院學監なる同姉は中國九州地方へ視察の爲出立さるゝ間際に至り郷里丹波より父君の御病氣の報を得直に歸省せられたり。

○井澤花子　數日間風邪にて引籠中。尙夫人の御姑君御病氣の處五月中旬御逝去遊ばさる。

○新渡戶萬里子夫人　五月七日ミス・ペーヂ、ミス・スペンサーと共に春洋丸にて出帆。

○陶山百合子　岡山縣津山町に歸らる。

○土井澤江子　永らく神田女子靑年會寄宿舍にあられしが今回渡邊裁縫女學校卒業、岡山縣高梁高等女學校に赴任。

○佐々木たみ子　大阪女子靑年會幹事なる同姉は數日間上京本部を訪問諸女學校を視察さる。

○中央委員會　五月十一日開催せしが折惡しく出席者少數なりしも活氣に滿ちたる集會なりき。

○岡見恵子　しばらく伊東に靜養されしが目下府下目黑に御歸宅。

○ミス・ガンター　數日間大阪に出張。

○ミス・マシウ　五月中旬よりしばらく大阪に滯在の豫定。

○ミス・タピング　米國加州日本女子靑年會の幹事たりし同姉は今回渡來され今秋より神戶支部創立に盡力され可き豫定。

○原田よし子　同志社女學校卒業後德島高等女學校に赴任。

○小澤ため子　長崎活水女學校に赴任。

○井上みどり　同志社卒業後目下東京にて御兩親のもとに家事御研究中。

○梅花女學校　同校女子靑年會は本部に加入す。

○木村熊次郎氏　本會訪問。

○東京女子靑年會々員有志　五月十八日多摩川へ遠足。

○川戶環子　五月中旬女子御出産。

○平岩末子　五月中旬より東京女子靑年會に執務、因みに云ふ平岩愃保監督は美以敎會大會のため渡米多分本年末御歸朝。

○陶山米子　多忙なる學務の中に慰問繪端書七百枚を一手に賣り盡して應援せらる。

○上野俊子　米澤にて繪端書三百枚を數日間に賣りて同情をよせらる。

○バゼル先生　仙臺尙絅女學校長の同氏は本會を御訪問。

○增井花江子　神戶女學院にて去三月まで女子靑年會會長たりし同姉は目下鳥取市にて傳道に從事す。

○早川祝枝子　藤田天以夫人の紹介にて入會す。

○渡邊ゆり子　横濱捜眞女學校靑年會にて講話す。

寄附金會友會費雜誌代及び萬國女子青年會本部負擔金領收報告（本部）

寄附金

金五圓也　某
金壹圓也　木付熊次郎
金拾圓也　ミセス・クック

本部事業負擔金

金五圓也　横濱女子青年會

萬國女子青年會本部の爲め

金四圓貳拾錢也　梅花高等女學校青年會

聯合軍慰問事業寄附金

金拾貳圓也　宮城女學校青年會

會費

金壹圓也
原田　芳（大正七ノ五―八ノ四）岡田　美喜（大正七ノ十―八ノ九）
早川　祝枝（大正七ノ五―八ノ四）
金壹圓貳拾錢
清水　君子（大正七ノ四―八ノ三）
金壹圓五拾錢
和田　長子（大正七ノ一―七ノ十二）
金貳圓也
ホルセー（大正六ノ六―七ノ五）廣島女學校青年會（大正七ノ四）
金拾圓也
クック（大正七ノ六―八ノ五）
金四拾錢也
伊藤みつを（大正七ノ五―七ノ十）富永　いく（大正七ノ一―七ノ五）
金五拾錢也
中村　玉子（大正七ノ一―七ノ五）
金七拾錢也
敬文館（大正七ノ五―八ノ四）
金八拾錢也
金井まき代（大正七ノ五―八ノ四）西上　みな（大正七ノ五―八ノ四）
江口　文代（大正七ノ六―八ノ五）梅花幼稚園青年會（大正七ノ五―八ノ四）
金壹圓也
井深　八重（大正七ノ五―八ノ四）本間　春（大正七ノ四―八ノ三）
金壹圓貳拾錢也
志立　やな（大正七ノ五―八ノ四）
金參圓六拾錢也　建林　常子（大正七ノ一―七ノ十二）三部代
金八圓也　神戸女學院青年會（大正七ノ五―八ノ四）十部代
金八圓也　梅花高等女學校青年會（大正七ノ六―七ノ五）十部代

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税	內地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正七年五月廿八日印刷納本
大正七年六月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會　電話本局五九八番　振替東京二三七二三番
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　右同　三成舍

spoke. Miss Kawai presided.

From the concernt given on May 11th the association realized more than Yen 480. The program was an unusually good one, comprising both Japanese and foreign numbers.

Our educational classes now enroll more than sixty girls. Classes are offered in vocal and instrumental music, sewing, shorthand and English.

Every morning at eleven o'clock devotional exercises are held for twenty minutes. Fifteen or twenty girls are always in attendance. Miss Kawai has made a short talk at this time twice and Miss Matthew once.

We were very fortunate in having Miss Kawai give us a full week of her time last month. She came to us on May 20th and remained in the association building, devoting herself principally to emigration work.

TOKYO ASSOCIATION.

The annual meeting of the association was held May 4th at the association building in Kanda with about 170 members present. Miss Iwasawa of the Friends' School presided. After devotions Miss McGee gave a violin solo, which was followed by a vocal solo by Miss Shimoyama, acocmpanied by Miss Watanabe. Both Miss Shimoyama and Miss Watanabe are from the Ueno Academy of Music. An address was made by Mr. Arima, Governor of Kosuge prison on the subject, "Crime and Religion." Mrs. Imanishi, Mrs. Hani, Mrs. Ozawa, Mrs. Kojiro Ito, and Miss Bosanquet were elected members of the Tokyo Board for a period of three years, and Mrs. Yoshioka, and Mrs. Ninomiya were elected to fill two unexpired terms of two years each.

Following the annual meeting a farewell party was given for Mrs. Nitobe, the Retiring President, and Miss Page, General Secretary, who were leaving shortly for America. A foreign lunch was served cafeteria style to about two hundred friends of Mrs. Nitobe and Miss Page. Following this a May pole dance was given by the gymnasium class and the dormitory girls gave some stunts, representing the as-
On Saturday, May 18th about forty-five members of the asso-
sociation fifty years hence. A picture taken at the party is in this number.
ciation went on a picnic to Tamagawa, and were fortunate in being able to visit the grounds of Baron Den, head of the Department of Communications. The girls spent a very happy time, and by selling lemonade and cake started a fund to send delegates to the summer conferences.

KOBE COLLEGE Y. W. C. A.

Officers and Meetings of the Spring Term 1918 follow:

President: Misao Sugi.
Vice President: Midori Takenouchi.
Secretary: Nami Emoto.
Treasurer: Itsu Hirai.

Date	Topic	Leader
April 21.	Growth	Kiku Miyajima.
April 30.	Struggle of Making Choice	Naomi Yonezawa.
May 5.	Love and Prayer	Matsuyo Matsuda.
May 14.	Jesus' Cross and Our Cross	Hishi Koda.
May 19.	Science and Religion	Yori Nozaki.
May 28.	Prayer as Spiritual Communion	Yoshi Minaki.
June 2.	Jesus as a Teacher	Teru Hanzawa.
June 11.	About Paul Sawayama	Shizu Hashinami.
June 16.	A Jealous God	Koto Yamada.
June 25.	Jesus, the Savior of Them that Believe	Ko Sugimori.
June 30.	The Christian Interpretation of History	Nami Emoto.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN
JOSHI SEINEN KAI

VOLUME XV. JUNE, 1918 NUMBER 6

The programs for our summer conferences are not yet printed, but below we give a summary of the two conferences. The motto for the two conferences is James, 2, 17. "Even so faith, if it hath not works, is dead, being alone."

Kobe Conference at Kobe College. This conference begins on the evening of July 16th, and lasts until the morning of the 24th. Mrs. Taki Shidachi will be the leader. The Speakers are: Dr. Saiki, Mr. Hinowara, Miss Kajiro, Mr. Miyagawa, Mr. Naide, Mr. Yamamuro. The Bible teachers are: Mr. Imaizumi, Miss Nakaji, Miss Kido and Miss Nishino.

Sendai Conference at Shokei Jo Gakko. This conference begins on the evening of July 23rd and lasts until the morning of July 31st. The leader is to be supplied. The speakers are: Dr. Sasao, Dr. Nitobe, Mr. Mori, Mr. Inagaki, Mr. Yoshikawa, and two others to be secured. The Bible teachers are: Miss Iwasawa, Miss Kawai, Miss Watanabe and Mr. Yoshikawa.

The expenses of the conferences will be: Registration fee Yen 1, Board .85 per day.

A prize of Yen 5 has been offered for the best association song to be written by any member of the association. The metre to be used is 666,676,768, and the song is to be three verses in length without chorus. We are hoping to have this song ready for our conferences.

At the meeting of the National Committee on May 11th Baika Jo Gakko in Osaka was affiliated with the National movement, making our total number of associations thirty (twenty-seven student and three city.)

Miss Helen Topping, who for the past three years has been working under the Y. W. C. A. for Japanese women in California, arrived on the Siberia Maru on May 17th. She will be at 12 Sanchome, Tamachi, Ushigome until the summer. In the early fall she will go with Miss Esther Nixon to start our work in Kobe.

OSAKA ASSOCIATION.

The first general meeting of the Osaka Association was held at the Kokaido in Tennoji Park on April 27th, and more than a thousand girls attended the meeting. Mrs. Asa Hirooka and Miss Kawai addressed the meeting. Miss Nishino of Wilmina Jo Gakko presided. Mr. Allchin had trained a chorus of one hundred and fifty voices from the three mission schools in Osaka, Pooles, Wilmina and Baika. This chorus sang beautifully and added much to the pleasure of the meeting. Announcements of the classes offered in the Osaka association were distributed at this meeting and already many girls are coming to register for these courses.

The Promoting Committee of the Osaka association is now collecting memberships with the hope of raising the entire amount needed for the work planned for this coming year.

Miss Matthew will spend most of the time from now until the summer in Osaka, helping our association, and in planning for the Kobe Conference, and general student work in Osaka, Kobe and Kyoto.

YOKOHAMA ASSOCIATION.

At the meeting on April 24th there were more than six hundred persons present. Madame Hirooka, Mr. Ebina, and Mr. Kurushima

女子青年界第拾五卷第六號（毎月一回一日發行）
大正七年五月廿八日印刷納本　大正七年六月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可